

館 報

お お く 寺

おもな内容

- 2面……教育基本方針
- 3面……学級講座開講
- 4面……スポーツ傷害保険加入案内
- 5面……児童生徒指導協議会発足
- 6面……就任にあたって
- 7面・8面……みんなの広場

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷



つばめの
親子

そら。
おいしい食べものを
いっぱいもって来たよ
待っていたらう
喧嘩しないで
泣かずにいたの
つばめの父さん母さんは
今日もせっせと餌を運ぶ
五匹の雛は
大きな口をあけて
お田さんの口から餌をもらう
だめだめお前はここの次よ
こんどはお前の番だね
つばめの母さんは
おいしいものをあげる順番を
決めてまちがわない
つばさもだいたい大きくなつたね
もつ少しよ
お田さんと一緒に飛べるのも
やがて寒さのやってくる頃
暖かい南の国へ
つばめの親子は帰るだろ
帰る旅路につつがなないことを
村の子供らは
小さな胸の中で祈っているだろ
つばめの親子は
村の子供らの夢でもある
少年時代の
想い出でもある。

(六月十八日大川原で撮影)

昭和
52年度

教育の基本方針

教育長太田芳一郎

昭和五十一年度の、教育委員会策定の教育行政が、大綱的に基本計画に沿って実現してきたことは、町当局の教育に対する熱意と町議会、感謝を申し上げたいと存じます。昭和五十一年度におきましては、大野幼稚園の改築に引きつづきまして、熊町幼稚園の改築を図ること、大野小学校の木造老朽校舎の早期改築を図るために、耐力測定を県に依頼いたします。又大熊中学校の校舎完成に伴う校内必要機器の整備等を、町当局のご協力をいただきながら進めて行きたいと思っております。先般県の教育基本方針として、

(一) 教職員の指導力の向上と教育活動の充実を第一の柱として示しており、そして第二に幼稚園教育の拡充を挙げております。当町といたしましては、学校は児童生徒の人間形成の場であり教師の果す役割は重大であると考えられます。且町内の幼児教育は絶対的なものとして定着してきた現在、教育委員会として大きく力を入れてゆきたいと思っております。

幼稚園について
昭和五十一年度の町内四歳五歳児数は二九六名であり、そのうち町内入園児二二五名、保育所入所

児四歳五歳児で二十四名、富岡私立入園児二名、家庭保育十八名となっている。今後四歳五歳児で、五十三年二七三名、五十四年三〇〇名、五十五年三一五名と増加するので幼稚園整備と教諭の現職研修によって教諭陣の強化と充実を図ってゆく。

小学校について
年次計画によって学校環境整備を進めてゆく。特に大野小については、木造校舎であるので早期改築を図ることが基本であり、とりあえず第一校庭の整備と校舎内外の維持管理上の最低の補修と整備及び、プールの保全と美化上、塗装と戸過材交換を実施する。

中学校について
大野熊町両中学校分室が五十年四月一日に実質統合、五十一年度内に野球場、ソフト設備、テニスコート、走り巾跳、走り高跳び設備、プール完成、総合落成式は五十二年三月四日に実施した。今後教育機器等備品の計画的整備と、人間開発の万全を期すための指導体制の確立と、関係機関の組織及び活動の充実化を図り、教育効果をねらいといたします。

社会教育
永い伝統と歴史を持つ学校教育からみて、社会教育はその重要性

が叫ばれてから歴史が浅いのでありますが、社会の変化と人生の余暇時間の増大は、要求課題の増加に結びつき、為政者或は教育委員会は、ここ数年その要求課題にこたえてきた。県教育委員会とされてきました。県教育委員会は、今年度の重点施策として社会教育の拡充と社会体育の振興を挙げております。当町も社会教育の事業については、公民館事業として年々増強してはおりますが、今年度も生涯の各時期における要求課題に対応し得る様努力してまいります。その主な事業内容は次の通りです。(詳細は後日公民館

より示されます)
一、各種学級
●家庭教育学級 ●高齢者大学
●青年学級 ●婦人学級
●成人学級 ●青年学級
二、教養講座
茶道、書道、珠算、絵画、文芸、料理、舞踊、民謡の八講座開設。
尚今年度ママサンコーラスの集いを計画、家庭音楽の普及をはかる。
三、社会体育
野球、卓球、バレーボール(一般・家庭)、バスケットボール、庭球等各種球技の振興をはかる。尚スポート少年団の充実強化をはかり、剣道教室の充実により心身の鍛錬を行う。

四、文化振興
文化財の調査収集、文化祭の開設、特に町史編さんの準備にかかるとの委員会議設置を実現したい。

昨日の各新聞は、前日文部省より発表された「新学習指導要領案」を一斉に掲載し、関係者の談話も掲載しております。
その「新学習指導要領案」の是非についての私見を述べることはさし控えたいが、教科の中の「社会」では小中とも「わが国の国史、歴史に対する理解と愛情を育て、公民的資質の基礎を養う」ことをその中心に据え、国家・国土・郷土

これからの人づくりと社会教育

公民館長高野昭二

への認識を強調されているように理解されます。今後いろいろな角度から賛否両論にわたる批判の声も聞かれるであろうが、社会教育の仕事に携わっている者の一人として国家・国土・郷土への認識を深め、愛情を育て、公民的資質の基礎を養うという日本国民としての基礎づくりを、義務教育の中に大きくとりあげられたことはたいへん喜ばしいことであると思っております。

また「音楽」と学校行事などの「特別活動」の中で、いままで単なる「君が代」として扱われてきたものが「国家君が代」として位置づけられたことも嬉しいことでもあります。町には町民の歌があり、県には県民の歌があり、学校には校歌がある。国に国歌のないことはさびしいことである。国家を愛し、国土を愛し、郷土を愛し、国旗日の丸のもとに国歌「君が代」を声高らかに斉唱したからといって、即軍国主義復活につながるという論理はあまりにも飛躍した考えではなからうか。国民の中に定着した「君が代」であれば……。

学校教育によって、その人の人格の殆んどが形成され、やがて社会人となって、社会の組織の中に入っていく。その社会人を対象として行われている社会教育は、学校教育の延長であり学校教育の基本方針をふまえた社会教育でなければならぬと思っております。そんな意味から、こんど発表された「新学習指導要領案」による学校教育の効果の大きい期待したいものである。

今年度も公民館は「誰でも、どこでも、いつからでも」学べる機会と場を豊富に提供し、生涯各時期における要求課題、必要課題に対応し得る態勢を整備し、生涯教育の実をあげるべく渾身の努力を傾ける所存でございます。町民各位のご協力、ご叱声を賜りたくお願い致します。(六月十日)

学級講座開講

農繁期も一段落というところで五月晴のあい間に高齢者大学、青年学級、婦人学級を始め、絵画、料理、茶道、書道、珠算等の各講座を開講いたしました。また今年始めての試みとして実施した一回目の親子登山教室も多数の参加を得、楽しく終了しております。

その他、剣道やさつき展等それぞれの目的に沿った自主的な活動もスタートしており、グループや



頂上を目指す登山家

学級・講座で久し振りに顔を合わせ互に学ぶことの楽しさは格別であり、喜び溢れた様子でした。健康は顔色を見ればわかるともいわれるが、心身共に生き生きとして心の糧を得られる方々は素晴らしいと思います。

ここで今年度の高齢者大学や婦人学級で学習された二・三の内容を紹介します。

- ① ねたむ心……これは芯止りであり、批判が強く、人をうらやむ、女の敵は女である等。
- ② 視野がせまい……気が小さく腹がたち易く子供との対話、嫁姑の立場、旦那との間柄等、自分にいい聞かせるための広い視野が欲しい。
- ③ 親の学ぼうとする態度……ちやうちゃんのあかりのように目先だけしか見えない親では困る。もつと学習をして正しい判断をしてもらいたい。学習している人は、あかりが無くても百メートル先でも見透せる。そうした姿でない高校生等はついてこない。
- ④ 若さとは……年齢ではない。学習途上にある人こそ若く、生き生きしている。
- ⑤ 挨拶……愛の一声で親から声をかけよう。一度、二度かけると必ず相手からも戻ってくる。勇気を出して、我が身だけという考えは最後に自分も捨てられる。家庭、

川内村の矢内俊晃先生が長い人生体験の中から話をされました。山村を訪れると若い方々はみんな働きに出ており、老人が茶ダンスの前で一人でラーメンを食べている。何んと味気ない姿だろうか。老いと孤独をいやすためにも家族と共に暮らしたいものである。「他は我にあらざ」という言葉があるが、幸せは与えられるものではない、自分でつくるものであるから老人にふさわしい生き方を見つけ出すことこそ本当の幸せである。

その他、無駄の効用ということも話され、無駄をつくり得る人は最高の栄誉であるともいわれ、特に政治の中でこうした配慮が大切である。川内村の天山文庫等は、その良き例であるとの講話でした。



立派に完成した下1公民館

下一区公民館は昭和十一年共同作業場として建築されたものを、昭和三十七年解体移転したもので相当老朽化していた。

今年部活の総意で新築することになり、総工費三四〇万、福宝建設株式会社の請負で六月十日竣工し、六月二十六日落成式を行うことになっている。

建坪二十五坪（三間×八間と玄関）大広間三〇畳、台所兼小会議

銃砲登録審査会

刀剣類を発見したときは、もよりの警察署に届出て、所持の銃砲を届けなければならない。また、譲受け、相続したときは二十日以内に所有者変更の手続を県教育委員会にとつて下さい。

なお、今年度の登録審査会は次の日程により行われます。

- 七月二十五日(月) 郡山市 県合同庁舎
- 九月二十六日(月) 福島市 県合同庁舎
- 十一月二十四日(木) 会津若松市 県合同庁舎
- 十二月二十日(火) 白河市 県合同庁舎
- 一月二十四日(火) 原町市 県合同庁舎
- 二月二十三日(木) 福島市県庁会議室

下一区で公民館新築

七月の行事予定

- 高令者大学：七月一日、薬草植物について現地学習（新地町）
- 郡町村対抗野球大会：七月二日、広野町において開催。
- スポーツ少年団県大会（ソフトボールの部）：七月二十一日、二十二日、飯坂小学校において開催、熊小スポーツ少年団出場。
- スポーツ少年団野外研修：七月二十八日、二十九日、熊川キャンプ場において開催

地域社会へと。⑥ 価値感の違い……テレビや新聞で討議されたジパンの学生、子供の制服等何がよいかは、現代の価値感の違いで色々と意見が出たようです。皆さんも考えてほしい。

盛大に行っている。

また近い将来は敷地内に児童公園も計画されている。

スポーツ傷害保険への加入はお済みですか

近年、余暇の増大に伴い各種スポーツが盛んになっておりますが、これと相俟って、スポーツ活動中における事故も激増しており、これら傷害を被った場合の救済措置として、スポーツ安全協会傷害保険制度があります。スポーツを愛好する団体、グループ等は是非加入されるようお勧めします。

◆この保険に加入できる団体

スポーツ安全協会傘下のスポーツ団体および社会教育関係団体で、責任者を置き、かつ団体が明確に把握されている十名以上の団体構成員を対象とす。

◆保険の種類

第一種

- ①幼稚園、小中学校の児童生徒により構成され、自主的な活動を行うことを目的とした団体。
- ②PTA、青年団体・婦人団体その他これらに類似する社会教育関係の団体。
- ③地域住民によつて構成され、親睦や健康保持を主たる目的とした地域スポーツクラブ。

第二種

- ①山岳登山、ボブスレ、グライダー操縦等。
- ②レスリング、ボクシング、相撲

スクールバス利用の皆さんへ

大熊町スクールバス運行協議会の定期総会が、過般公民館において開催されました。

この会は、園児幼児を安心してバスに乗せることを目的に、町と会員皆さんのご協力により発足したもので、本年度三年目を迎えました。

本年は幼稚園児の増加により、会員は二三五名(スクールバス利用の園児数と)増加しております。運行は、午前七時～九時まで、午後一時～五時までと長時間に亘り続けられます。又、交通安全に気を配り、毎日を小さな事故ひと

撲、空手、スキー、サッカー、硬式野球、柔道。

- ③剣道、卓球、庭球、水泳、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、ソフトボール、ゴルフ等。

◆この保険で対象となる事故

- ①被保険者の所属する団体の管理下における活動中の傷害。
- ②団体が指定する集合、解散場所と被保険者の住所との通常の経路往復中の傷害。

◆保険期間

加入手続き時より昭和五十二年三月三十一日まで。

◆加入手続き

只今受付中ですので団体員名簿(年齢記入)および印鑑持参

つないようにと運転することを第一としております。

そのため、会員の皆様には勿論、町民の皆様も多くのご協力と理解が必要とされます。

また、スクールバスを利用するにあたり、次の事項をよく守るよう会員の皆様をお願いいたします。

- 父兄は停留所までの送り迎えをかならず行うこと。
- バスの通過時刻より早め待つこと。

- 道路の横断、待ち時間中は児童の安全指導にあたること。
- 運転手、添乗員に心温いあいさつを送る。

なお、総会において次の方々が役員に選ばれました。

幼小中 PTA 役員

町立の幼稚園、小中学校のPTA総会がそれぞれ開催され、今年度の役員が次のとおり決まりました。

今後PTA(父母と先生の会、あるいは、家庭と学校)を通し子供達のために諸活動が行なわれます。会員相互のご理解とご協力をお願いいたします。

大野幼稚園(会員 九五名)
会長 猪井 誠一(下野上二)

のうえ公民館へおいで下さい。

保険料および保険金額

区分	保険料	保 險 金 額			
		死亡・後遺障害保険金額	医療保険金 入院 非入院	入院 日額	
第一種	300円	3,000,000円	1,000円	1,500円	
第二種	A	4,800	3,000,000	1,000	1,500
	B	2,800	3,000,000	1,000	1,500
	C	1,200	3,000,000	1,000	1,500
備考	特に希望ある場合は、S型(保険料及び保険金額は上記の半額)の加入も可能です。				



故 志 賀 セツ

亡き人のこのみしものと芹もらふ
水仙や遺品となりし手記を読む
佐久間 信子

おおらかに心広かれ春の空
春一番新居構へて用多く
結 城 チヨ

春雷や恩師の手紙読みかへす
春めきぬ街の外れの店先も
鎌 田 光子

沈丁花遠くなりたる幼き日
チューリップ咲きてお暮に眠る吾子
木 村 蓉子

麻痺の手にほほえみて受く金盞花
今日もまた黄砂の芹をそそぎけり
猪 井 静 枝

芹摘みの胸をつかれし救急車
いつのまに老女となりし毛糸編む
菅 野 ミヨ

そのかみの移民の苦斗桜濃し
ワイキキの春夕映に声もなし
坂 上 節 子

みだれ髪かきあげし手に花吹雪
目にかがびたる花吹雪夜半の風
渡 辺 政 美

紅梅や稚き月にも色生れ
姿見に刻美しき夕桜
中 山 安 子

紺句ふモンペをはきて種を播く
三毛猫もアチも居るなり春日向
高 野 昭 二

桐の花老衰の父寝返りす
燕の巣乾きしま、に無人駅

子供を事故から守る 児童生徒指導協議会発足

昭和五十一年度末に、県内で発生した要田中学校生徒の自殺事故、須賀川第三小の小学生の他殺事故等の問題が発生、その度毎に県教育委員会より通達があり、町教育委員会も再三学校側と話し合いを進め、児童の事故防止に当って来たところでありましたが、この事故防止の進め方としては、地域ぐるみによる対策が最も必要とされる関係から、各関係機関による懇談会を開きましたことは、既にご承知の通りであります。新年度に入りまして、早々にこの体制の強化を図り、児童生徒の安全な環境づくりに万全を期したいものと、四月二十五日各関係機関の代表者にお集まりいただきまして「児童

事業計画(細部省略)

五月上旬：事業計画審議
七月上旬：児童生徒の事故並びに非行化防止について。

十二月上旬：生徒指導のための父母の研修
三月上旬：本年度の事業計画のまとめ。

役員名
会長：愛川 一(社教委員長)

教職員紹介

(転入者)

今年四月一日付で町内小中学校の先生方が次のように異動され、それぞれの立場で指導に当たっております。ご父兄の皆様も何かにつけてご協力下さいますようお願い申し上げます。

大野小学校
教頭 白土俊三
教諭 遠藤庸夫 三年一組担任

教諭 永野康明 四年一組担任
助 〃 庄野幸子 五年二組担任
〃 賀沢洋美 三年二組担任
熊町小学校
教諭 遠藤智信 四年二組担任
〃 井戸川サワ 四年一組担任
〃 吉田富子 五年一組担任
〃 本郷里子 一年二組担任
〃 安田京子 二年担任
大熊中学校
校長 小野田宗郎 一年主任
教諭 吉田義英 保健体育担当

副会長：小野田宗郎(大熊中学校長)
〃 木幡キサ(社教指導員)
幹事：下宮公久(区長会長)
菅野祐二(大野小P会長)

委員
松本六郎(議員)
松本幸一(教育委員)
吉川 正(校長)
紺野義尚(小校長)
末永精一(小校長)
小林和夫(町長)
志賀トシ(町長)
松永秀篤(指導員)

井上文男(教員)
山田幸太郎(民生委員)
志賀敏男(小校長)
神谷直隆(大熊P会長)
高野昭二(公民館長)
根本多利吉(町長)
谷本政雄(議員)

体力づくり指定 研究一年目の成果

昨年度より大熊中学校では、文部省より体力づくり研究推進の指定を受け、鋭意研究を続けて来ましたが、これは己に周知の通りであります。それで研究の糸口を掴むた

中体連で活躍

六月八日・九日の二日間、大熊中ほか七会場において郡中学校総合体育大会が開催され、大熊中は熱戦のすえ五種目に優勝した。また、他の種目でも過去にみられない好成績をおさめた。

■団体の部
優勝 バレーボール(男子)
バレーボール(女子)
庭球(男子)
バトミントン(男子)

準優勝 野球
三位 卓球・剣道(女子)
バスケット(男子)
バトミントン(女子)

■個人の部
優勝 バトミントン
小竹秀一・渡部 弘組
バトミントン
準優勝 小竹秀一・渡部 弘組
バトミントン
三位 大橋喜代子・中串千秋組
庭球
神谷次郎・梅日安広組

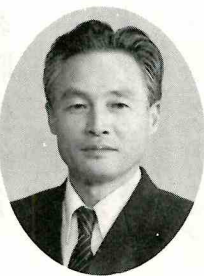
めに、県内の中学校を無任意に抽出し、二十校にスポーツテストの結果を送って頂き、本校の結果と比較し、本校生徒の優っている点と劣っている点を調べ、劣っている点を重点的に鍛えることから研究が始まりました。本校の生徒の現状は(昨年六月現在、二年生)他校と比較して、非常に優れているのは長距離走、ハンドボール投げ、平均ぐらいいなは走り幅跳び五〇米走。非常に劣っていたのは懸垂でした。それで懸垂を例に挙げますと県平均四・九回。全国平均五・一回。本校平均は何と三・一回でした。そこで何とかして懸垂力を高めようという訳で、本校独自のサーキットトレーニングという方法で訓練を始めた次第です。

その結果を挙げますと六月現在の三・一回が十一月現在では五・二回まで向上し、全国平均を僅か〇・一回ではあります。この数字を見ただけでも体力づくりの効果が表われたものと、生徒は大きな自信を持ったのです。次に他の種目について述べますと、長距離走で十七秒、走り幅跳びで十五センチ、五十米走で〇・二秒向上しております。

以上が体力づくり研究一年目の成果です。更に二年目、三年目と訓練が続けられますので、この調子で行くと、どの位向上するか本当に楽しみです。どうか家庭でも朝食抜きなどさせないで、ご協力頂きたくお願い申し上げます。

職員一同も、一年目の成果を踏まえて、二年目、三年目と更に向上を目指して張り切っていますので、昨年以上の鞭撻をお願い申し上げます。一年目の報告と致します。

就任にあたって 大熊中学校長小野田宗郎



この度の異動により大熊中学校長を拝命し、四月一日着任いたしました。任務の重大さを痛感いたしておりますが、皆様方の温かいご支援とご理解をいただきながら職責の遂行に努力して参りたいと思っております。よろしくお願いを申し上げます。

しばらく前のことになりましたが、「天声人語」らんに次のような記事がありました。
「年輪の幅は、植物の種類・樹齢・土壌・気温・日照度などさまざまな条件で異なる。一つの年輪には、その一年間の樹木の歴史が刻みこまれる。樹は年輪のようにさだかではないが、年輪を感じさせる人はたくさんいる。成長する樹と同じく人間の年輪も経験と努力の中から生まれる。仕事にうちこんだ人、風雪にまけず苦勞を重ねた人、人生の年輪の深さを教えられることは多い……。」といううなことでした。
たしかに、年輪の深さを教えられることは多く、これからの将来

に生きる子どもたちには、ぜひ、さまざまな条件のもとで形成されるであろう一つ一つの年輪を、その子なりにどのように望ましく育てあげるべきかなど考えさせられて心にとどめておきました。
とくに中学生の時代は心身の成長が著しく、感情も豊かで、いろいろなことさらに自分から対決し、

氣力体力のある 人づくり

熊町小学校教頭白土俊三



昭和五十二年四月の人事異動によりまして大野小学校に赴任して参りました。非才ではございますが今までの経験を生かして、皆様のご期待にそうべくがんばり、子どもによりよい成長にいくぶんでも寄与したいと心をひきしめていきます。ふりかえってみますと、大熊町とは縁が深く、大熊町発足の年の昭和二十九年から昭和四十四年まで十五年間熊町小学校に勤務

自分から解決していかなければならない決断と実践にせまられ、悩みの多い大事な時期でもありません。幸い大熊中学校は、すばらしい環境が着々と整備されますことは、ほんとうにありがたいことであり、中学校生活は三ヶ年でありますが、ひとりひとりの生徒にとって生涯を支える年輪となってくれることを固く信じます。先生方とともに大熊中学校の教育を誇りとして精進する所存でありますので、よろしくお願いを申し上げます。

し多くの子どもを担任しました。その間結婚をし、熊町に住居をかまえ、二人の子どもを育てました。大熊町は私にとって第二のふるさとであり、今回八年ぶりで大熊町の学校に勤務することになりましたが、「故郷に帰る」の心境であり、大野小学校の教育実践をとおして町のために微力を尽したいと強く考えています。
二十三年前に私が最初に赴任した当時とは、大熊町も大きく変貌していますが、今も変りないのは教育に課せられた「人づくり」という使命だと思えます。心もからだも、強く明るく正しい子どもに

育てるのが我々教師の責務であり子を持つ親そして町民全体の願いであると思えます。大野小学校のPTA会報にも書きましたが、とかく現代っ子は口先だけのモヤシっ子、頭でっかちのテレビっ子に育ちがちです。この子どもたちを身も心もたくましい子どもに育てていくにはどうしたらよいでしょうか。

かつて我々が子どもの時代、大地の上をはだしで、大空の下を自由に、野や山を存分にかけ回って遊んだころこの遊びの経験や、ガキ大衆につれられて遊んだ遊び仲間との経験などを、今の子どもたちに味わわせてみたいと思えます。
「兎おいしかの山、小鮒つりしかの川」という歌にあるようなふるさとを子どもに持たせる教育、「大地大空」の中で子どもを育くむ教育を推進しなければならぬと思えます。

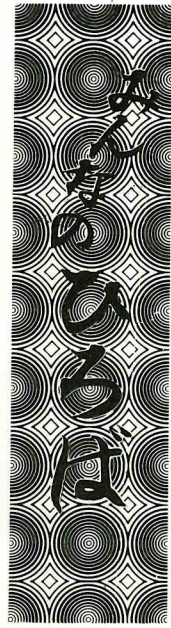
また、物が豊富にあり子どもに与えずぎている今の世相は、子どもをたくましく育てるためには考えなければならぬ問題です。
たとえば、「今の子どもは本を読まない」といいますが、テレビを中心とする情報過多の環境が子どもに読む意欲を失わせているのが実情です。私たちの子どもの頃は、ラジオのある家も少なく、本を読むのが唯一の楽しみでしたが、本を買いたくても貧しくて買ってもらえませんでした。学校にも図書館はありませんでした。

「本を読みたい」と子ども心に思いました。「自分で本を買えるようになったら思いっきり本を読もう」と考えたことを今でも覚えています。自分の子どもには、読めない悲しみを味わわせたくないといい本を買って与えました。しかし読んでほくれませんでした。読みはじめたのは自分で読みたいという意欲が出てきたときでした。
本を読む意欲を子どもにいかにか起させるかが、家庭や学校に課せられた課題だと思えます。与えずぎもよくない本の一冊もないような環境でもだめだと思えます。テレビを見ない日や時間を持つたり、母と子で本を読む時間を持つたりなど工夫が必要ですよ。

このように、遊びのこと、読書のこと、さらには体力づくりのことなど子どもの教育のこと、さらに広く人づくりのことを考えると、教師ひとりよりも学年で、学年よりも学校全体で取り組む方が効果があるように、これを地域ぐるみ町ぐるみと発展させ、学校教育、家庭教育、社会教育の一貫性と調和のとれた教育によって大熊町を教育の理想郷としたいという夢を持っています。

町民の皆様の教育に対する深いご理解とご協力をお願い致します。





教えられる

ある本に「教えるとは学ぶことである」と書かれていた。
ここ数年、未熟ながらも多くの人達と「書」の研究を続けているが教える立場にたった時に、教えることが多く、正に至言だと感じている。

これは具体的に「教える者は、教えられる者からなにかを学びとる気持で、教えられる側の立場に立つて教えなければ真の教育にはならない」と、何だか廻りくどくど判りにくい言い方をしなければ

新しい忍耐

私は、「忍耐」という文字が好きである。ちよつと考えると時代おくれの感がありそうに若い人たちから思われそうだが……。

私たちは、お互いがたすけ合つて生活している。何かにつけ特に隣近所などは本当にいろいろと世話になつていくことが多い。

物事ひとつ相談して決めるにも和気あいあいとした雰囲気話を進め、お互いに伸びるために、どうすべきか意見を出し合い努力し

その真意はつかめないのである。現実には、教えてやるというのではなくて、共に研究するという気持で、教わる側が理解するまで愛情をもって教え、理解したかど

小さな親切 大きな勇氣

満員電車の中で老人に席をゆずる、これは常識であり知らない人はいない。自分だつて疲れているんだと考える人は余りいないが、

ている姿などがよく公民館での部落集会にみられる。

だが、一部にはあまりに真剣になりすぎたり、自己があまりにも不利になつたりすると、感情をむき出しにして、人の意見も聞かずに片よつた意地をはつている姿もみられる。こんなことはまれではあるが各人それぞれ都合もあるが「がまん」をして一歩一歩、少しずつ改善の為に審議をしていくようにしたいものである。

私はよくある人に「意見を言うのもよいことだが、もつとむずかしいのは、多くの人びとの意見を

うかを確認することが必要であり、そのための手段を自らだが、たえず研究する努力を続けなければならぬのである。

これらの努力が報われる時、それは教わる側が、一歩一歩上達し更に前進せんと目を輝かし、ひたむきに努力する姿を見せつけられた時である。

そして教える者は、又努力をしなくてはと責任を感じる。教育とは、こんな一面を持つ。

(井戸川)

席をゆずるには大きな勇氣がいる。席をゆずつてあげたいと思つても勇氣がないばかりに実行にうつせない。こんな人が多いのではな

じょうずに聞くことだ」と。

ここ私たちの田舎では、老いも若きも、男も女も、平和に親しみをもち仲よく暮らしているように思

う。常にお互いが、そういう心構えで暮らしているからなのだ。つまり忍耐をほどよく調和させているからではないだろうか。精神的な忍耐、よい意味での忍耐は、世の中を暮らしていく上でなくてはならない条件にもなっているように思

う。耳をかたむけじっくりと人の言を聞く時は常に勉強であると思ふようにしているこの頃である。

(大川原 一主婦)

いだらうか。紙くずを拾う、これには勇氣がいる。人前で十円玉を拾う、これにも勇氣がいる。

子どもが川でおぼれている、通りかかった人は知らぬ顔ですぎ去る人はいない。交通事故にあつた人を見てそのまますぎ去る人もいないだろう。大事の前には勇氣があるが、小さな親切にはもつと大きな勇氣がいるものである。

(一古老のことば)

おばあちゃん

過ぎた日、家実の母が入院したので看病にいった。同室のおばあちゃん、八十歳のちよつと風が吹いたら飛んでしまふような軽

いおばあちゃんだった。その上眼が悪くお話するのもやつとだった。

このおばあちゃんの息子は漁業を営んでおり、このおばあちゃん若い頃は家事一切を受けもち、八人の子どもを育てたそう。その子どもたちも、それぞれ家庭をもち仕事も忙しく看病も二、三日交代だった。病人の生活がやつとわかりかけた時、また次の娘とか嫁とかが来て看病していく。私は幸いにもずっと母のそばについていることが出来たので、このおばあちゃんを気の毒にさえ思えた。

でも誰がきても「よく来てくれたたのむよ」と病状をさばさば話しかけてもあまり苦痛を訴えなかつた。

ある時、孫にあたる若い娘が泊つてくれた。おばあちゃんの頼みごとなど、雑誌に夢中になつて聞いているのか聞いていないのか看病にきていることなど念頭がないでもないやな顔もせず、気嫌をとつてやつてもらつていた。この娘が帰っていき誰もいない時などは、私が面倒をみてやると、心から礼を言い、時折昔話など、自分の考えを交えながらあつさり聞かせてくれた。「我」を張つたところなど全くなく素直に世の中を送つた感が話の端からうかがわれた。

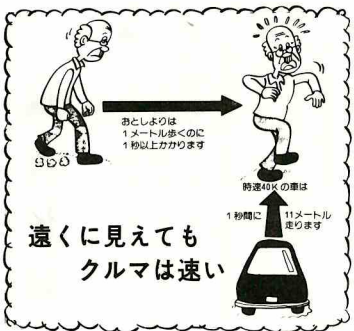
私はこのおばあちゃんに接し、私もやがて年老いたら、こんな心で過していきたいと思つた。

●できるだけ我をはずらず、若い人たちの気持をくみとり、おだやかに楽しく暮らしたい。

●常に感謝の気持ちで、依頼心もほどほどにしていきたい。

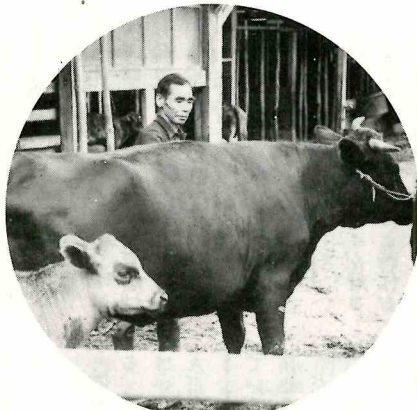
●かわいい愛されるようなおばあちゃんになりたい。

(一農民)



牛の繁殖にとりくむ 横川さん

大川原の横川一蔵さんは、永年
にわたり和牛の繁殖にとりくんで
おり、昭和五十一年度の仔牛出荷
頭数は十一頭とか、この実績は双
葉畜産農協の新記録となったそう



牛の手入れに励む横川さん

である。横川さんと和牛の出合い
は昭和三十四年、赤毛和種一頭を
導入したのに始まり、三十五年耕
転機の購入を機会に耕馬と入換え
に黒毛和種三頭を導入、三十六年
肉豚と入換えに親子二頭を導入、
その後も肥育牛の益金
等で逐次増頭につとめ
四十九年には計画通り
十頭の親牛を揃えられ
たそうです。

また、五十年の出荷
頭数は十頭で二八万
円、五十一年度十一頭
で三五万円と好成绩
を収めております。そ
して、この間仔牛共進
会ではチャンピオン牛
三頭、優等牛七頭、一

青年会活動

大熊町青年会では、この程総会
が開催され、健全なスポーツ活動
と学習活動の推進、町内美化運動
の推進、明るく正しい選挙運動の
推進等をスローガンに掲げ、交歓
会や教養研修及びレクリエーショ
ン活動を通し、仲間づくりの輪を
広げてゆくことになり、次の方々
が新しい役員に選ばれた。
なお、青年会では会員を募集し

ておりますので、未加入の方は是非
入会され、青春を楽しく過して
みてはいかがでしょう。入会希望
者は最寄りの会員へご連絡下さい。
▼役員名簿

- 会長 渡辺完治
- 副会長 坂本一郎、末永タキ子
- 書記 佐々木正重、亀屋信子
- 会計 島原健治郎、松永秀篤
- 監事 鈴木実、渡部良彦

備えあれば憂なし

先日親戚の家が火災で全焼した

等牛以下は本人もよく覚えていな
いそうである。

特に今までの失敗例としては不
妊で廃用牛一頭、親の死亡事故一
件の二頭なそうです。

横川さんは生産費を下げるため
牧草や青刈作物の外に大麦を四十
俵程収穫し濃厚資料の購入は四〇
万円程度に抑えているとのことだ
した。「まだまだやりませよ」と
元氣一杯の横川さんです。

感じのよい先生

先日ばれいしよを植えつけてい
るとスーッと一台の自動車が進ま
った。何げなく顔をあげると、グ
レーのパンタロンスーツの女性が
一人車を降りてきて、ていねいに
頭をさげて、「すみませんが〇〇さ
んのお宅はどこでしょうか」とき
かれた。幸い知っている家だった

原因はテンブラ油に火が入ったた
めという。テンブラは火をよぶと
いわれている。そんなとき、ふた
をかいておいて、野菜を入れるとい
も知っていたらうが、あわてたた
め手が出なかつたのだらう。
この人がもし火が入つたらと準
備しておいたら大事にならなかつ
たらうと思う。

私たちの身近には予期しない事
故がたくさんつきまといっている。
事故が起つてから考えては間にあ

編集後記

ので教えました。が、「ありがとうご
ざいました」といって車にのり窓
から笑顔をみせて走り去った。最
近珍らしく礼儀正しい人だと思っ
てきいてみたが大熊中学校の先生
でこの日は家庭訪問だったのだと
のこと。目下私の家には子供がい
ないので学校のことに関しては全
く知らないが、とかく行動が目立
ち易いのが学校の先生である。普
通なら何ともなく見過されること
でも教師であることによつて非難
的になることもあり大変なこと
は思うが、やっぱり一寸したこと
にも気を配られ教師であることに
プライドを持ち、行動なさるなら
ばおのずから子供らもマスコミも
ついていくのではないか等と思つ
た。又このような先生がいらつし
やる大熊中の教育は、充実したも
のに違いないと心暖まるものがあ
った。

◆いよいよ本格的な梅雨に入った
三日も太陽の顔を見ないと心の底
まで暗くなりじめじめしてくる。
日頃太陽の有難さなど考えてみ
たこともないが、いざ太陽の顔が
見られなくなるとその有難さがつ
くづく感じられる。

◆高校を卒業して遠く就職された
方々はそろそろホームシックに罹
る頃だろう。故郷を遠く離れて知
るのは故郷の有難さだ、そして父
母の有難さだ。啄木はこんな言
言っている。

かにかくに洪民村は恋しかり
おもひ出の山おもひ出の川
ふるさとの山に向ひて、言ふこ
となし、ふるさとの山はありが
たきかな

◆わたし達はこの町に生れこの町
に生きているからこの町の有難さ
を忘れがちなのである。わたし達
は日本の国に生れ日本の国に生き
ているから日本の国の有難さを忘
れがちなのである。国を愛し国土
を愛し郷土を愛することは誰にも
はばかる必要はない。

◆館報の原稿をお寄せ下さい。要
領は四百字詰原稿用紙一枚程度で
一、主張、産業、教養、文芸に関
するもの何でも結構です。
二、政治的な色彩をもたないもの、
個人非難に属する抽象的な
いもので常に建設的なもの。



(一老人)